

## 新入社員に聞く就職活動に関する意識調査 2018

～群馬県で就職する若者を増やすために～

一般財団法人群馬経済研究所  
主任研究員 丸岡 美智世

### ～要 約～

1. 群馬経済研究所では、県内企業及び近県企業に今年度入社した社員を対象に、①就職活動をした時に利用した情報源や就職先を決める際に注目したこと、②新入社員としての意識、等に関してアンケート調査を実施した。以下はその結果の概要である。
2. 就職活動の評価では、「想定より楽だった」と「順調だった」の合計が、高校や短期大学・専門学校卒では6割台を占めたものの、大学・大学院卒では約5割に止まった。就職活動で苦労したことの1位は、高校や短期大学・専門学校卒では「就職活動と学業との両立が難しかった」、大学・大学院卒では「交通費がかかった」となり、2位にはいずれの学歴でも「地元企業の就職情報が入手しづらかった」が入っている。
3. 就職活動で利用した情報源をみると、高校や短期大学・専門学校卒では「求人票」が、大学・大学院卒では「就職情報サイト」がそれぞれ最も多い。情報源のなかで役に立ったものは、高校卒では「求人票」、短期大学・専門学校卒では「企業見学会」、大学・大学院卒では「就職情報サイト」である。
4. 志望する企業を選ぶ際に注目した点の上位には、「職場の雰囲気良さ」と「地元企業であること」が挙がっている。なお、地元での就職を決めた理由を尋ねたところ、「実家から通えるので金銭的に楽だから」が最も多く、「家族や友人が近くにいるから」、「地元への愛着があったから」が続いている。
5. 就職活動の時に感じたこと(自由回答)では、①企業には具体的な仕事内容や企業自身の情報を積極的に提供してもらいたい、②県内企業の採用情報にアクセスしづらい、といった意見が複数みられた。
6. 新入社員の昇進に対する考え方では、「特に考えていない」が4割と最も多く、「専門職・スペシャリスト」と「出世にも、専門職にもこだわらない」がほぼ同率で並んでいる。現在の勤務先でいつまで働きたいか尋ねたところ、「当分、今の会社で勤めたい」が4割強と最も多く、「定年まで勤めたい」(2割強)を大きく上回った。
7. 本県企業に多くの学生等に就職してもらうためには、就職情報の充実が不可欠である。行政は、地元の就職関連情報提供サイトを充実させるとともに、サイト自体の存在も、SNSを活用したり教育機関の協力を得て、より一層周知していく必要がある。また、企業には、学生等に向けて①職場の雰囲気や普段の仕事の様子がわかるような情報をウェブサイトやSNSを通じて提供していくこと、②企業見学会やインターンシップの実施により企業に対する理解を深める機会を設けていくこと、等が期待される。

キーワード：就職活動、企業選択、新入社員の働き方